



校長室の窓から

《校長だより》

神奈川県立市ケ尾高等学校

校長 増淵 広美

平成30年3月2日

第29号

卒業おめでとうございます！～真摯に自分と向き合い、高い意識を持って自分を磨き続ける～

3年生の皆さん、卒業おめでとうございます。

皆さんは、この市ケ尾高校で私が初めて3年間を共にした学年です。入学式では、「やる気」「根気」「本気」の3つの「気」を「努力」でつなぎ、よき仲間とともに高い目標に向かって切磋琢磨してほしいと伝えました。

新入生歓迎会では、真っ暗な体育館に入場するその瞬間、パッとライトに照らされ、皆さんは、先輩たちの大きな拍手に包まれて体育館を歩きました。そこでの全校生徒による初めての「市高最高！」の唱和。その時皆さんは、この市ケ尾高校に入学したことを真に実感したことと思います。それからいくつもの「市高最高！」を重ね、今日の卒業の日を迎えています。



私は、この3年間、「凡事徹底」「より高きを目指せ」という二つのことばで皆さんを励まし続けてきました。

当たり前のことをおろそかにせず徹底することで、人としての基礎がつけられます。誠実さは信頼を生み、よき習慣はよき人生をつくります。

また、自分の力を信じ、より高い目標に向かって挑戦することで、「今」の自分を超越することができます。人と比べる必要はありません。真摯に自分と向き合い、高い意識を持って自分を磨き続けてください。

本校での3年間を経て、皆さんは凜としてたくましく、皆さんが担うこれからの社会に大きな期待が膨らみます。

◆◆ 可能性に満ちた時代

皆さんが生きていくこれからの時代は、二つの意味で、これまでの大人が経験したことのない予測困難な時代です。

一つは、科学技術の進歩はめざましく、2030年、皆さんが30歳になるころには、ホワイトカラーの仕事の約半分がAIに置き換わる可能性があると言われていています。単純作業の多くがAIに代替され、人間は個別の状況に応じた判断をしたり、創造性の高い仕事を担ったりすることになるでしょう。とするならば、これからの時代は、既存概念にとられない、可能性に満ちた時代でもあるはずです。

◆◆ 人生にマニュアルはない

今年の1月、冒険家の荻田泰永さんが、日本人として初めて、無補給で南極点への単独踏破を達成しました。荻田さんは、南極大陸の海岸線を出発し、必要な物資を積んだ約100kgのソリを一人で引きながら、氷点下20度を下回る中、1130kmの距離にある南極点を徒歩で目指しました。

その荻田さんが、帰国後の会見で、「極地はマニュアルがなく、自分の能力を客観的に判断して試行錯誤しながら主体的に行動するのが面白い。目の前の一步一步を積み重ねればどこまでも行けることを学んだ」と語っています。

このことばは、人生にもつながります。明確な目標があるからこそ挑戦があり、努力があり、実現や成功があります。思い描くことができれば実現できます。だからこそ、臆することなく自分の人生を思い描き、「なりたい自分」を生きてください。

人生にマニュアルはありません。そして、自分の人生に最後まで責任を持てるのは自分だけです。これからの変化と可能性に満ちた時代を、自分の力を信じ、学び続け、主体的に生きることで、本来持っている力を存分に発揮し、悔いのない人生を送ってください。皆さんは、この3年間でそのための基盤を十分に培っているはずです。

◆◆ 「利他の心」を大切に

もう一つは、「人生100歳時代」と言われる長い人生をどのように生きていくかということです。調査を始めた55年前、100歳以上の高齢者は、全国でたった153人でしたが、昨年の調査では6万7824人に上り、今後さらに増え続けることが予想されています。

100年という時間をどのように生きるかということを考えてとき、昨年の7月に105歳で亡くなった聖路加国際病院の名誉院長、日野原重明さんの生き方に多くを学ぶことができます。人を愛し、命を尊び、生涯現役の医師として患者に寄り添った日野原さんの業績は数多く、その人生を貫くものは「利他の精神」でした。

日野原さんは、「人には生まれ持ったミッションがある」とよく話されています。また、1970年の「よど号ハイジャック事件」では、その飛行機に乗り合わせ、人質となって命の危険にさらされるという衝撃的な経験をし、それ以降、「自分の人生を他者のために使いたい」という決意をさらに強めたといえます。

日野原さんは、こんなことばを残していらっしゃいます。

「なんと言っても、人が人に与える最高のものは、心である。他者のための『思い』と『行動』に費やした時間、人とともにどれだけの時間を分けあったかによって、真の人間としての証がなされる。」

この世界のどこかに、皆さん一人ひとりにしか担えない役割が必ずあります。

人は、自分のためだけに生きているときよりも、誰かのため、社会のために生きようとするとき、困難にも怯まず、強い信念を持って生きることができます。

皆さんが、社会や世界のどこかを支えているという自負を持ち、「利他の心」で多くの人のために力を発揮してくれることを心から期待しています。皆さんなら、必ずそれができるはずです。

